

埼玉県深谷市（国内 38 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 17 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場周辺は平地であり、周囲には田畑が多い。また、農場の横には川が流れており、川沿いの木々には多数のカラス類（ハシボソガラス、ハシブトガラス）を認めた。
- ② 当該農場から約 460m、1.1km、1.8km 地点に 1 つずつ池が点在している。調査時には、460m 地点の池にコガモ 18 羽及びカルガモ 7 羽、1.1km 地点の池にコガモ 42 羽、オナガガモ 24 羽、マガモ 6 羽、オカヨシガモ 23 羽及びカルガモ 9 羽、1.8km 地点の池にカルガモ 13 羽及びコガモ 114 羽を認めた。
- ③ 当該農場には、高床式開放鶏舎 10 棟が設置されており、そのうち 6 棟及び 4 棟ずつが内部の通路で繋がっていた。いずれの鶏舎も A ライン型の 3 段 4 列式のケージで、発生時は 1 鶏舎を除き採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 480 日齢及び 282 日齢）における過去 2 週間の平均死亡羽数は約 5、6 羽であったとのこと。毎朝行っている死亡鳥の見回りで、12 月 16 日朝に鶏舎の中央通路南側の中央からやや奥のケージで 38 羽の死亡を確認し、通報の基準値以上であったため家畜保健衛生所に連絡したとのこと。通報後、他の鶏舎も見回ったところ、更に 1 鶏舎の中央通路南側の中央からやや奥のケージでも 38 羽の死亡を確認したとのこと。これらのケージ以外に異状は認めなかったとのこと。
- ② 疫学調査時（17 日午後）には、発生 2 鶏舎のそれぞれの発生ケージ周囲に衰弱又は死亡した鶏が確認された。また、発生ケージ付近で数個の軟卵を認めた。
- ③ 他の鶏舎も含めてこれら以外のケージの鶏に異常は確認されなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では社員 12 名が勤務しており、うち飼養管理担当者は 1 日当たり 4 名とのこと。
- ② 鶏舎を 4 ブロックに分けて、うち 3 ブロックはそれぞれに 1 名ずつ飼養管理担当者がおり、残り 1 ブロックは専属ではなく 2～3 名から日替わりで 1 名が担当することとのこと。なお、発生 2 鶏舎は別のブロックだった。
- ③ 集卵作業を行った担当者が同じ日に鶏舎に入ることがあるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域入口は 2 か所あり、それぞれに消毒ゲートが設置されていた。飼養管理者によると、衛生管理区域に車両が入る際は、この消毒ゲートで消毒しているとのこと。衛生管理区域と隣接する川や道路の境界は、一部において柵等の物理的な障壁は設置されていなかった。
- ② 飼養管理者によると、従業員は、衛生管理区域に入る際は、衛生管理区域内の駐車場に車を止め、事務所で衛生管理区域専用作業着及び靴を着用し、手指の消毒を行っているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員が鶏舎に入る際は、鶏舎入口の踏込み洗浄槽、消毒槽（逆性石けん、1 日 1 回又は汚れた場合は都度交換）で靴を洗浄、消毒し、鶏舎内専用の靴に履き替えるとともに、消毒スプレーで手指の消毒を行っているとのこと。通路でつながっている鶏舎間の移動の際には、長靴交換及び手指消毒は実施し

ていないとのこと。

- ④ 衛生管理区域内には、主に飼料運搬と集卵の業者が入るとのこと。飼料運搬業者は来場する際、当該農場専用の車両を使用しており、衛生管理区域内で車を降りる際には当該農場専用の靴に履き替えているとのこと。集卵業者は当該農場専用車両を使用しており、農場専用の靴に履き替えている者もいるが、全員が実施しているかは不明とのこと。そのほか、雛導入業者及び廃鶏出荷業者が来場しており、直近の出荷は12月6日であったとのこと。堆肥の引取り業者は、衛生管理区域に立ち入らず、区域外で引き渡ししているとのこと。
- ⑤ 集卵ベルトが屋外に出る部分は高所に設けられ、また、上部がカバーで覆われていたが、発生2鶏舎から集卵室に伸びるベルト下部は外部に露出していた。集卵ベルトには、集卵室との境界部に手動で開閉するシャッターが設置されているが、鶏舎との境界部には設置されていないとのこと。
- ⑥ 給餌及び給水については、鶏舎内のラインを通して自動で行われる構造であった。
- ⑦ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水として用いられる水は全て水道水を用いているとのこと。
- ⑧ 鶏糞は、高床式鶏舎の1階に落ちる仕組みになっており、週3～4回重機で農場内の堆肥処理施設まで搬出する作業を行うとのこと。
- ⑨ 飼養管理者によると、死亡鶏は毎朝の健康観察時に回収し、バケツリフトに入れて堆肥処理施設横の死亡鶏処理装置に運搬し、処理後、鶏糞とともに堆肥化しているとのこと。死亡鶏、鶏糞及び堆肥の運搬に用いた重機等は高圧洗浄機で洗浄しているが、消毒は実施していないとのこと。
- ⑩ 飼養管理者によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを実施しており、アウト後と導入前に清掃・消毒を行い、空舎期間は清掃消毒期間も含めて21日間と定めていたとのこと。加えて鶏舎内の清掃は不定期で行っているとのこと。
- ⑪ 鶏舎上部のモニター及び鶏舎側面には、網目2cmの金網が張られており、金網の外側にはロールカーテンが設置されていた。2階には、金網の内側に更にもう1枚ロールカーテンが設置されていた。
- ⑫ 飼養管理者によると、冬季の換気は、モニター及び鶏舎1階のロールカーテンを手動で開けることで行っているとのこと。鶏舎壁側にもロールカーテンが設置されているが、冬は壁側のロールカーテンは閉め切っているとのこと。
- ⑬ ロールカーテンや金網のほころびは補修されているものの、発生鶏舎の屋根の一部が破損し大きな隙間が生じたままになっているなど補修ができていない箇所も認められた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 調査時には、多くの鶏舎で1羽から数羽のスズメや小型の野鳥の侵入を確認した。また、発生2鶏舎の間の鶏舎内で野鳥のものと思われる糞を確認した。農場東側の草藪には約30羽のスズメが群れているのを確認した。飼養管理者によると、日ごろから鶏舎内へのスズメの侵入はあるとのこと。
- ② 農場敷地内では、カラス類、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、アライグマの足跡及び野生動物の糞を認めた。
- ③ 飼養管理者によると、農場周辺において、カラス類、サギ類、タヌキ、イタチ、ネコを目撃することがあるとのこと。
- ④ ネズミについては、昔はいたが、今はほぼ見かけないとのこと。委託業者が、殺鼠剤を各鶏舎の四隅に設置している。粘着ワナも数年前まで設置していたが、とれないので今は設置していないとのこと。調査時は、鶏舎内における明瞭なラットサインは認められなかった。

(以上)